

第40回 都市公園等コンクール

管理運営部門 国土交通大臣賞



遠藤笹窪谷公園
ENDOSASAKUBOYATO PARK

公園名 遠藤笹窪谷公園
作品名 生物多様性の保全と体験に特化した公園管理
受賞者名 藤沢市
横浜植木株式会社



藤沢市における生物多様性の取組の経過

- 第1回 藤沢市自然環境実態調査（平成10年度から平成13年度）
⇒本調査結果等を基に、「**藤沢市ビオトープネットワーク基本計画**」を策定（平成19年度）
- 第2回 藤沢市自然環境実態調査（平成23年度から平成25年度）
⇒本調査結果等を基に、「**藤沢市生物多様性地域戦略**」を策定（平成30年度）
⇒本戦略の重点プログラムに基づき、「**生物多様性センター（長久保公園）**」、
「**生物多様性サテライトセンター（遠藤笹窪谷公園）**」を開設（令和5年度）
- 第3回 藤沢市自然環境実態調査（令和5年度から令和6年度）
⇒本調査結果等を基に、「**藤沢市生物多様性地域戦略**」を改定（作業中）



全景



展望デッキからの眺望



研修室（講習会等で利用）
地元中学生との交流事業（生物多様性）



展示スペース（一部）

生物多様性サテライトセンター

遠藤笹窪谷公園は、藤沢市内最大の谷戸である「遠藤笹窪緑地（約24.3ha）」のうち、約2.5haを都市公園として開設し、周囲の緑地、約20haは特別緑地保全地区に指定しています。これにより、谷戸環境の一体的かつ持続的な保全が図られています。

本公園の整備により、遊水地機能を有する湿地や水田、カキツバタ田、菖蒲畑、谷戸の湧水を引き込んだ小川、草地等の様々な空間を復元・創出することにより、谷戸全体の環境要素が補完されました。

管理においては、本市が公園区域の大半を「生きものの生息環境を優先するエリア※1」に設定したうえで、指定管理者（横浜植木株式会社）が現場レベルで生きものに配慮した草丈や草刈り時期のコントロール※2、日常的な生きもののモニタリング等を行うとともに、定期的に両者で現況や公園のめざすビジョン等を共有しています。

本公園では、生物多様性に関する「体験」を重視しているため、虫捕り網の貸出により、実際に生きものに触れる機会を創出するほか、夜の自然観察会や土壌動物の観察会など、工夫を凝らしたコンテンツを展開しています。

※1 都市公園という性質上、来園者の利便性・安全性に十分配慮したうえで、生物多様性の保全に関する取組を行っています。

※2 日本大学との共同研究により、「刈高20cm」「草刈り頻度2回/年」のケースにおいて、生きものの種類が多いことがわかってきました。

DATA
公園名：遠藤笹窪谷公園
面積：約2.5ha
種別：特殊公園(風致公園)
所在地：藤沢市遠藤4840
供用開始：2022年(令和4年)7月
土地利用：市街化調整区域
生物多様性サテライトセンター
延床面積：232.90㎡
主要構造：木造



遠藤笹窪谷公園HP

数字で見る遠藤笹窪谷公園の特長

①藤沢市で No.1 の自然環境

※第2回 藤沢市自然環境実態調査より
(遠藤笹窪緑地 豊かさ(指標種の確認種数・種数密度)の評価)



遠藤笹窪緑地の全景



湿地（遊水地機能）



復元化した草地の保全（高刈り）
※白線は写真上で追記



「昆虫少年」が増加

③満足度 99 %の観察会

※観察会の参加者における満足度アンケートの結果より
(満足・ほぼ満足による数値)



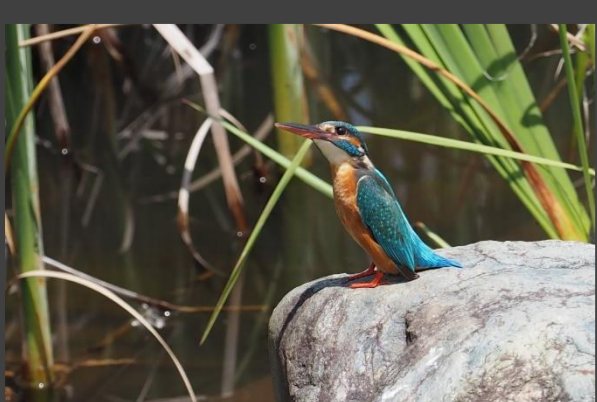
夜の自然観察会
(申込多数により抽選)
当選確率 4倍



土壌動物観察会

④約 680 種の生きもの

※第2回 藤沢市自然環境実態調査より (遠藤笹窪緑地 植物：387種 鳥類45種 昆虫：231種 その他：15種)



藤沢市の鳥 カワセミ



ギンヤンマ



トノサマバッタ



ナンバンギセル



野鳥観察会



谷戸の生きもの観察会